

事項	新たに発生を確認したキク微斑ウイルス (TAV) によるトマト及びピーマンのモザイク病		
ねらい	本県で新たに発生が確認されたウイルス性病害について、その特徴が明らかとなったので、防除対策上の参考に供する。		
指導内容	<p>1 発生場所 平成11年7月、鶴田町菖蒲川のトマト（品種不明）、及び8月、青森市上野のトマト（桃太郎8）とピーマン（トマピー）に発生した。</p> <p>2 病徴 (1) トマト 葉にはモザイク症状を示すほか、葉の葉緑部から枯れ上がることもある。茎えそを生じることもある。果実は凹凸が生じて奇形果となり、内部の維管束付近に茶褐色のえそがみられ、着色不良のまだら果となる。 苗の時期に感染すると、わい化して叢生となるほか、まれに故死する。</p> <p>(2) ピーマン 葉は激しいモザイク症状を示し、凹凸のある奇形葉となる。果実には、えそ輪紋を生じる。 苗の時期に感染すると、わい化したり、枯死する。</p> <p>3 ウイルスの伝染病と伝染 (1) 伝染源とその病徴 主にキクが伝染源と考えられる。キクでは、きわめて軽い退緑斑や薄い葉脈透化がみられる程度で、ほとんどの場合無病徴である。濃色系品種では、花卉の着色不良がみられる。</p> <p>(2) 伝染方法 キュウリモザイクウイルスと同じグループに属することから、アブラムシ類により非永続伝染すると考えられる。</p>		
期待される効果	トマトモザイク病やピーマンモザイク病の簡易迅速診断キットとの併用により正確な診断ができ、的確な防除指導を行うことができる。		
利用上の注意事項	診断にはタバコモザイクウイルスやキュウリモザイクウイルス、トマト黄化えそウイルスによる症状に類似するため、簡易迅速診断キットと併用する。		
担当	青森県グリーンバイオセンター 微生物工学研究部	対象地域	県下全域
発表文献等	平成11年度青森県グリーンバイオセンター試験成績書		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 トマト及びピーマンから分離されたキク微斑ウイルス (TAV) の寄主範囲
(平成11年 青森グリーンバイオ)

供 試 植 物	ト マ ト 鶴 田 株		ピ ー マ ン 青 森 株	
	接 種 葉	上 位 葉	接 種 葉	上 位 葉
<i>Chenopodium quinoa</i>	NLL	—	NLL	—
ツルナ	NLL	—	NLL	—
センニチコウ	NLL	NS	NT	NT
タバコ (サムスン NN)	CRS	VC, M	NT	NT
<i>N. glutinosa</i>	CRS	VC, M	CRS	M
ピーマン (ニューエース)	CRS	VC, SM	CRS	VC, SM
トマト (ポテンローザ)	CRS	VC, SM, Bush	—	VC, M
キュウリ (四葉)	—	—	NT	NT
カボチャ (えびす)	—	—	NT	NT
ソラマメ (打越)	NLL	—	NT	NT
ササゲ (黒種三尺)	NLL	—	NLL	—

注) NLL：局部えそ斑点、CRS：局部退緑輪点、SM：激しいモザイク、M：モザイク、
Bush：叢生、NS：えそ斑、VC：葉脈透化、—：無病徴、NT：非試験

表2 育苗ハウス周辺植物のキク微斑ウイルス (TAV) 感染状況
(平成11年 青森グリーンバイオ)

	キ	ク	ミヤコワスレ	ギシギシ	ツユクサ
TAV 検出	1 / 6	0 / 2	0 / 2	0 / 2	0 / 2

注) 検出株数 / 調査株数

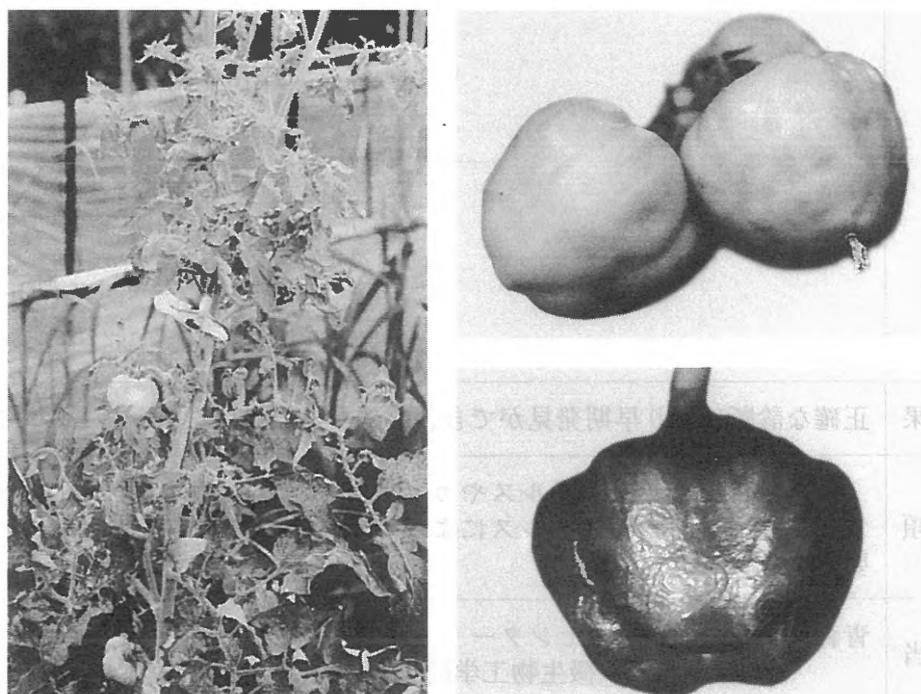


写真1 トマト及びピーマンにおける被害症状

注) 左：トマト被害株、右上：トマト果実の凹凸とえそ、
右下：ピーマン果実のえそ輪紋症状